

工事施行状況報告書作成要領

高槻市都市創造部審査指導課

この報告書作成要領は、都市計画法第80条及び宅地造成及び特定盛土等規制法第25条の規定に基づく報告事項及びその作成方法を定めたものである。

許可を受けた者若しくは土地の所有者、管理者又は占有者は、この作成要領に基づき施行状況報告書を作成し、試験報告書等及び工事写真等を適宜添えて高槻市長へ報告するものとする。

用語の略は下記による。

法	……………	宅地造成及び特定盛土等規制法
令	……………	宅地造成及び特定盛土等規制法施行令
J I S	……………	日本工業規格
J A S S 5	……………	日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」

目次

1 施行状況報告書	1
2 各種試験等報告書	1
3 工事写真の撮り方及び撮影場所	4
4 報告事項資料の取扱いについて	5
様式1・様式2・様式3	巻末

1 施行状況報告書

1-1 作成要領

- 書式は様式1、様式2及び様式3による。
- 様式1の施行状況報告書の表紙の概要欄は、許可申請書の内容と一致させる。なお、工事施行者等に変更があれば法律等に基づく申請を、この報告前に行う。
- 様式2の作成については、様式2の記載例を参考にし、詳しく正確に記載する。
- 様式3の資料チェックリストは、JIS、JASS等に基づき、高槻市長が指示する報告資料についてまとめたものであり、許可を受けた者若しくは土地の所有者、管理者又は占有者は工事着手前に報告資料を正確に把握し、工事完了後報告資料を確認の上、資料チェックリストに記載し報告する。

2 各種試験等報告書

2-1 地盤調査報告書

- | | |
|---------------------------|--------------|
| (1) 地盤材料試験のための乱した土の試料調整方法 | (JIS A 1201) |
| (2) 土粒子の密度試験方法 | (JIS A 1202) |
| (3) 土の含水比試験方法 | (JIS A 1203) |
| (4) 土の粒度試験方法 | (JIS A 1204) |
| (5) 土の液性限界・塑性限界試験方法 | (JIS A 1205) |
| (6) 土の突固めによる土の締固め試験方法 | (JIS A 1210) |
| (7) 土の一軸圧縮試験方法 | (JIS A 1216) |
| (8) 土の三軸圧縮試験 | (地盤工学会の方法) |
| (9) 土の直接剪断試験 | (地盤工学会の方法) |
| (10) 土の段階載荷による圧密試験方法 | (JIS A 1217) |
| (11) 土の透水試験方法 | (JIS A 1218) |
| (12) 砂置換法による土の密度試験方法 | (JIS A 1214) |
| (13) 標準貫入試験方法 | (JIS A 1219) |
| (14) 平板載荷試験 | (下記による) |

地盤工学会基準「地盤の平板載荷試験方法」による。

ただし、重機を載荷装置の代用として用いる場合も、その他の試験装置、方法等は、上記地盤工学会基準を準用すること。

また、試験実施地点は、許可時の造成計画平面図等に表示された地点とする。

なお、やむをえない理由により、地盤工学会基準「地盤の平板載荷試験方法」による試験を実施できない場合、及び、当初の試験実施地点で試験を実施できない場合は、事前に高槻市都市創造部審査指導課と試験方法等について協議すること。

- (15) 地盤改良施工計画書及び施工報告書 (下記による)

地盤改良については、「建築基礎構造設計指針」(日本建築学会)又は

「改訂版建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(日本建築センター)によること。

また、施工計画書及び施工報告書には、次の項目を含めること。

- | | | | |
|---------|--------------------|----------|---|
| (施工計画書) | ・土質調査資料 | ・改良目標値 | |
| | ・施工方法 | ・管理方法 | |
| | ・工程表 | ・効果の確認方法 | 等 |
| (施工報告書) | ・施工記録 | ・管理記録 | |
| | ・効果の確認結果（平板載荷試験結果） | | 等 |

2-2 杭体耐力試験報告書及び杭施工報告書

(1) 各種杭体試験報告書

① 既成コンクリート杭および鋼杭

J I S 表示許可証または国土交通省認定書の写しをもって、これにかえるものとする。

PHC 杭については国土交通省認定が必要である。

② 場所打ち杭

コンクリート配合報告書、コンクリートスランプ試験報告書、塩化物量試験報告書、コンクリート圧縮試験報告書、鉄筋強度試験報告書

(2) 杭の鉛直載荷試験報告書

地盤工学会の「杭の鉛直載荷試験基準」による。

(3) 杭施工報告書 下記該当項目を記載する。

① 一般事項

- (a) 工事場所
- (b) 施工会社
- (c) 工法
- (d) 杭の種類・径・長さ
- (e) 載荷試験の有無

② 位置図および地盤

- (a) 位置図
- (b) 埋立地（時期）・丘陵地などの事項・地盤沈下状況
- (c) 柱状図（標高・地下水位・調査時期を明示）・土性図

③ 施工記録

(a) 打込み杭

- ・杭打ち機種
- ・キャップ形状、材質
- ・ヤットコ形状（重量含む）
- ・打込み記録
- ・開端杭の場合の管内土深さおよび水位
- ・杭打ち時の地表高さと載荷試験時の地表高さ
- ・特殊な打込み方法を採用した場合はこれを明示
- ・溶接技能者資格証明書の写し
- ・杭芯ずれ図、補強計算書および補強図
- ・その他

- (b) 埋込み杭
 - ・ 施工法（プレボーリング、ジェットなどの別）
 - ・ 施工機械の諸元
 - ・ 掘削液の配合
 - ・ 根固め液の配合
 - ・ 施工記録
 - ・ 溶接技能者資格証明書の写し
 - ・ 杭芯ずれ図、補強計算書および補強図
 - ・ その他
- (c) 場所打ち杭
 - ・ 施工法（ベント、リバースなどの別）
 - ・ 施工機械の諸元（重量・形式番号・ブーム長など）
 - ・ ケーシングの有無（スタンドパイプについても記述）
 - ・ 施工記録
 - ・ 溶接技能者資格者証明書の写し
 - ・ その他

2-3 骨材試験報告書

- (1) 骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法 (J I S A 1 1 3 7)
- (2) 普通細骨材中の塩分試験方法 (J A S S 5 T - 2 0 2)
- (3) 骨材の微粒分量試験方法 (J I S A 1 1 0 3)
- (4) アルカリ、シリカ反応性試験報告書
建設省住指発 1 4 2 号（昭和 61 年 6 月 2 日）「コンクリートの耐久性確保に係る措置について（通知）」別紙に規定する骨材のアルカリ・シリカ反応性試験方法（化学法、モルタルバー法）による。
- (5) その他
 - ① 骨材ふるい分け試験方法 (J I S A 1 1 0 2)
 - ② 骨材の単位容積質量及び実積率試験方法 (J I S A 1 1 0 4)
 - ③ 細骨材の有機不純物試験方法 (J I S A 1 1 0 5)
 - ④ 細骨材の密度及び吸水率試験方法 (J I S A 1 1 0 9)
 - ④ 粗骨材の密度及び吸水率試験方法 (J I S A 1 1 1 0)

2-4 コンクリート配合計画書

レディーミクストコンクリート配合計画書 (J I S A 5 3 0 8)

2-5 コンクリートスランプ・空気量・単位体積重量試験報告書

- (1) 試験方法
 - ① コンクリートのスランプ試験方法 (J I S A 1 1 0 1)
 - ② フレッシュコンクリートの単位容積質量試験方法及び
空気量の質量による試験方法（質量方法） (J I S A 1 1 1 6)
 - ③ フレッシュコンクリートの空気量の容積による試験方法（容積方法） (J I S A 1 1 1 8)
 - ④ フレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験方法（空気室圧力方法）
(J I S A 1 1 2 8)

(2) 試験採取

フレッシュコンクリートの試料採取方法

(J I S A 1 1 1 5)

2-6 フレッシュコンクリート塩化物量試験報告書

J A S S 5 T-5 0 2 (フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法：J I S A 1 1 4 4) により、(財)国土開発技術研究センターの評価を受けた測定器による。

2-7 コンクリート圧縮試験報告書

- | | | |
|--------------|---------------------|-------------------|
| (1) 試験方法 | コンクリートの圧縮強度試験方法 | (J I S A 1 1 0 8) |
| | 供試体の材令は原則、28日までとする。 | |
| (2) 試料採取 | フレッシュコンクリートの試料採取方法 | (J I S A 1 1 1 5) |
| (3) 供試体の作り方 | コンクリートの強度試験用供試体の作り方 | (J I S A 1 1 3 2) |
| (4) 供試体の養生方法 | 建設省告示1102号 | |

※ 上記2-5～2-7の試験回数及び試料の採取場所は、下記のとおりとする。

- ・試験回数 : 1回/日かつ1回/150 m³
- ・試料の採取場所 : 荷卸し地点

※ フレッシュコンクリートの温度測定は、温度計による。

2-8 鉄筋強度試験報告書

- | | |
|----------------|-------------------|
| (1) 金属材料引張試験方法 | (J I S Z 2 2 4 1) |
| (2) 金属材料曲げ試験方法 | (J I S Z 2 2 4 8) |
| (3) 金属材料引張試験片 | (J I S Z 2 2 0 1) |
| (4) 金属材料曲げ試験片 | (J I S Z 2 2 0 4) |

上記により、鉄筋の種類及び径が異なるごとに1回(試験片3本)、かつ200kNごとに1回(試験片3本)の試験を行うこと。

ただし、ミルシートの提出があれば、これに替えることができる。

3 工事写真の撮り方及び撮影箇所

(1) 撮り方

- ① 工事写真を撮る場合は、全景を撮り、それから詳細部分を撮る。
- ② 詳細写真は、箱尺又はリボンテープ等寸法のわかるように撮る。
- ③ 詳細写真には、黒板を当てること。黒板の表示は、工事名、施工者名、写真撮影の年月日及び断面や配筋等撮影の目的となる内容を明記する。

(2) 撮影箇所(撮影箇所のわかる図面 → 番号矢印等で記入)

- ① 工事着手前及び竣工後の全景
- ② 撮影数は、ワンタイプの擁壁で2か所とし、同一タイプの擁壁で延長が100mを超える場合は、50mを超える毎に1か所追加。
- ③ 新たに設置される公共施設については、管理者と協議すること。
- ④ 擁壁(練積み)
 - ・ 栗石地業厚さ及び幅

- ・ 均しコンクリート施工状況
 - ・ 基礎の出来形寸法
 - ・ 根石の据え付け状況
 - ・ 前面G L高さにおける裏込めコンクリートの幅
 - ・ 透水層の厚さ及び止水コンクリートの施工状況
 - ・ 正面からの全高さ及び根入れ深さ
- ⑤ 擁壁（重力式、もたれ式）
- ・ 栗石地業厚さ及び幅
 - ・ 均しコンクリート施工状況
 - ・ 躯体の出来形寸法及び根入れ深さ
 - ・ 透水層の厚さ及び止水コンクリートの施工状況
- ⑥ 擁壁（片持梁式）
- ・ 栗石地業厚さ及び幅
 - ・ 均しコンクリート施工状況
 - ・ 基礎（底版）の配筋状況（鉄筋径、ピッチ、定着長さ等）
 - ・ 基礎（底版）の出来形寸法
 - ・ 縦壁の配筋状況（鉄筋径、ピッチ、定着長さ等）
 - ・ 縦壁の出来形寸法及び根入れ深さ
 - ・ 透水層の厚さ及び止水コンクリートの施工状況
- ⑦ 排水関係
- ・ 掘方の深さ及び幅
 - ・ 地業厚さ及び幅
 - ・ 排水管及び人孔、柵等の布設状況
 - ・ その他完了後、見えなくなる部分
- ⑧ 盛土工事
- ・ 盛土厚さ 30cm 毎の転圧状況

4 報告事項資料の取扱いについて

4-1 報告者

許可を受けた者若しくは土地の所有者・管理者又は占有者とする。

4-2 報告

工事完了届提出時に添付する。

4-3 報告事項資料の返却

原則として返却しないものとする。ただし、事前に連絡があれば、工事写真は返却する。

4-4 設計変更の取扱い

工事着手前及び工事中で設計変更（軽微な変更、大幅な変更を問わず）が生じた場合は、すみやかに審査指導課開発審査チームと協議し、指示をうけること。

4-5 報告事項資料の部数

原則として、1部とする。

月 日	天 気	報 告 事 項	報 告 事 項 詳 細

記号	項 目		有	無	備 考		
ロ	地盤調査報告書	裏込め土	粒度試験				
			三軸圧縮試験				
			一面せん断試験				
			その他				
		擁壁底盤	粒度試験				
			三軸圧縮試験				
			一面せん断試験				
			その他				
		地耐力	平板載荷試験	擁壁底盤位置			
				地盤改良			
地盤改良報告書及び結果報告書							
ハ	各種杭体試験報告書						
	杭の鉛直載荷試験報告書						
	杭施工報告書						
ニ	コンクリートの配合計画書						
ホ	コンクリートスランプ、空気量温度試験報告書						
	フレッシュコンクリート塩化物量試験報告書						
ヘ	コンクリート圧縮試験報告書						
ト	鉄筋強度試験報告書						
チ	工事写真						
リ	練積み造擁壁に用いるコンクリートブロック等の納品書						
ヌ	透水マット 事前打合せ報告書・出荷証明書・ チェックリスト・施工完了報告書						
ル	その他						

様式2の記載例

月 日	天 気	報 告 事 項	報 告 事 項 詳 細
3.30	雨	設計図書の照合	許可書と設計図書を照合し、間違いないことを確認した。
4.1	晴	杭地業	設計図書のくい長より 2m 長い試験ぐい 10 セット (PCA 種、φ 350、L=22m (11m+11m)) を搬入。試験打ちを行う。継手溶接部分状態良好。(溶接技能者は別添のと通りの資格者であることを確認する。)
4.2	曇	〃	打設結果は各セットとも設計図書以上の支持力がえられた。また支持層もボーリングデータど通りの深度であることを確認した。
4.22	晴	〃	200 セット打設完了。杭支持力は別添の報告書のとおりである。杭頭処理もひびわれが発生せず良好。 捨コンに墨出しを行った結果、杭芯ずれによる補強を要するものが 10 カ所あり、別添図面のとおり補強するよう指示する。
5.7	晴	擁壁底盤 擁壁縦壁	SD295 を使用していることを確認。杭芯ずれにより補強を必要とする箇所を念のため指示する。ベース筋に付着している泥の除去を指示する。 各部において、所定の径・本数・位置・定着等を確認。
5.10	雨	〃	また、杭芯ずれによる補強についても図面のとおり施工されていることを確認した。 補強部の型枠の位置・寸法等および所定のかぶり厚さがとれていることを確認した。
5.17	晴	高槻市配筋検査	高槻市に検査を受ける。杭芯ずれの報告を行い、その補強方法を計算書および図面で説明し、了解を得る。
5.21	晴	コンクリート打ち込み	指定強度 21N/m ² ・スランプ 15cm の別添資料ど通りのコンクリートを 86 m ³ 打ち込んだ。スランプ・空気量・塩化物量を確認。テストピースは材齢 7 日・28 日の圧縮試験用に 9 本採取した。
6.21	晴	土工事	透水シートを設置し、擁壁の埋戻しを行った。